



ニホンジカやイノシシなどの野生鳥獣による農林作物被害が依然として深刻な状況にある中、鳥獣の捕獲を担う狩猟者のうち、本県のわな猟免許取得者は増加傾向にあります。しかし...



わな猟免許は取得したけど、どうやって設置すればいいと？



周りに聞ける人がおらんとよね... 困った。

そのような声にお応えして、県では毎年「わなによる効果的な捕獲方法の習得」を目的とした講習会を開催しております(自然環境課が主催)。早速、10月に実施した講習会についてご紹介しますね！



講師

小西俊一様(宮崎県猟友会綾支部長 兼 農作物野生鳥獣対策アドバイザー)
室屋敦紀様(農作物野生鳥獣対策アドバイザー)

▼(1日目) 初級編

鳥獣保護管理法やくくりわなの仕組み・設置方法について、動画や実物の道具を見ながら学びました。

その後、2人1組でくくりわなを設置しましたが、思ったよりも力がある作業のため、皆さん苦労していました。

何回も繰り返し練習を行うことで、最終的にスムーズに設置することができました。

▼(2日目) 応用編

より実践的な内容として『小林式誘引捕獲』について学びました。

シカが餌を食べる際に、前足を一歩踏み出す習性を利用して開発された捕獲方法です(詳細は林野庁のホームページをご確認ください)。

座学が終了した後には町有林へ移動し、わな架設や、箱わな・地獄檻の特徴などについて学びました。初級編から引き続き参加されている方が多く、実地での架設もスムーズに行うことができました。

参加者からは、『実際にくくりわなを使用しただけが無かったので勉強になった』『電気止めさしの方が参考になった』などの声をいただきました。

▼最後に

今回講師を引き受けていただいた小西様、室屋様、またご協力いただいた綾町農林振興課の花岡様、岩切様に改めてお礼申し上げます。

有害鳥獣による農林業被害を抑えるには、捕獲従事者の協力が必要不可欠な一方で、高齢化も進んでおります。技術継承のためにもこの講習会を継続していく予定です。



小西俊一氏
『若手猟師の育成に、特に力を入れています。』



室屋敦紀氏
『鳥獣被害対策、お任せください!』



座学



くくり罠設置の練習



わなを落ち葉で隠して餌をおき完成



わなの周りに石を置き...



猟場でのくくりわな設置



箱わなの仕組みについて説明中

これって便利やねえ〜!



→写真右側の小西氏が綱引きを行うような体勢でハネを縮めています。とても力が必要な作業です。

力とコツが必要なくくりわなの設置。小西氏から紹介していただいた「ワンウェイストッパー」付きのくくりわなは、格段に操作が行いやすい！
1人がハネを縮めて、もう1人が蝶ネジを締める作業が必要だったのが、1人で全て完結できるようになっています！

担当者の一言
「わな猟免許」を取得しました！

9月に実施された第2回試験を受験しました。

受験するにあたり、「どの部分を重点的に勉強すれば良いのかな?」、「実技試験ってどんな感じだろうか?」、「猟具の判別ができるかな?」と、色々不安なところがありました。事前に行われた「初心者講習会(県猟友会実施)」に参加し、猟友会の方々に丁寧に受験のポイントを教えてくださいました！

狩猟免許取得などにかかる費用の助成がある市町村もある。市町村も考えるので、受験を考慮しておられる方はお住まいの市町村担当窓口を確認してくださいね！



→狩猟読本と例題集、お世話になりました！

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

東臼杵北部地域

「野生猿の被害防止対策」

今回、延岡市北方町における野生猿の被害防止対策について御報告します。

県環境森林部の野生猿生息状況調査結果では、二つの群れが同町内で確認されています。そのうちのひとつである「二股の群れ」は、14年前には10〜20頭の推定頭数でしたが、令和元年には80〜90頭に増加し、5年に60〜70頭とやや減少しています。

しかしながら、2、3年前から果樹産地である蔵田地区まで生息エリアが拡大しており、県内で最も作付面積が大きい桃をはじめ、ハウスぶどう、次郎柿、野菜の食害や枝を折るなどの被害が増加し、生産農家に大きな影響を与えています。

このような状況を踏まえて、延岡市では箱わな設置による捕獲対策に精力的に取り組み、地域住民への花火の提供による追い払い活動の支援を実施しました。また、農研機構の講師と地元生産者との意見交換会を開催しています。

周辺を山に囲まれる中山間地域では、露地果樹の猿対策（緩衝帯や防護柵の設置など）は容易ではありません。

今後、大型囲い檻等による捕獲対策、被害防止柵の設置はもとより、地元住民の目撃情報を元に猿の動線や潜み場所のマップを作成し、効果的な追い払い活動や集落点検など、基本に立ち返った地域ぐるみでの取組が期待されているところです。



①早生桃園地での猿侵入（夜蛾対策ネット設置園）



②猿による早生桃の亜主枝の折損被害

西諸県地域

9月25日（水）に小林地須木内山地区で小林地役所の担当者として鳥獣防護柵を整備予定のほ場の巡回を行いました。

同地区は重点現地支援の対象地区であり、令和5年度から令和7年度までの3か年で、鳥獣被害防止総合対策交付金関係事業を活用してワイヤーメッシュ柵を整備することを計画しています。

しかし、入り口や傾斜地に沿った箇所などは、適切なルートで設置しないとシカ、イノシシに侵入される懸念があることから、事業実施中にルート図が変更される事例があり、ほ場の実態に合ったルート図の作成が課題でした。

今回は、令和6年度に整備予定のほ場において、受益者が適正な設置ルートを把握しているかを確認するために、事前に受益者が張った目印のテープと、計画書のルート図を見比べながら巡回を行いました。

確認の結果、入り口や傾斜地に沿った箇所において、侵入が懸念されるルートがあり、ルートの再検討が必要であること、テープとルート図が一致しておらず、受益者のルートの認識が計画書どおりでない箇所があることが分かりました。

また、「ピンク色のテープが目立つため遠目からでも設置予定位置が確認しやすい」との意見が得られ、手法が有効である可能性が示されました。

今後は、同地区をモデル地区としてこの手法を他地域に広めていくとともに、令和7年度事業に要望予定のほ場に対しても同様の取組を実施していく予定です。



①ルート確認の様子



②侵入が懸念される設置ルート